

横 浜 市 教 育 委 員 会
臨時会会議録

- 1 日 時 令和6年8月16日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出 席 者 下田教育長 中上委員 森委員 大塚委員 泉委員
綿引委員（オンライン参加）
- 4 欠 席 者 （公開部分）なし
（非公開部分）綿引委員
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和6年8月16日（金）午前10時00分

1 会議録の承認

2 一般報告・その他報告事項

横浜子ども会議の区交流会開催について

南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プランについて

3 審議案件

教委第18号議案 「令和5年度実績 横浜市教育委員会点検・評価報告書」について

教委第19号議案 横浜市立図書館における図書館資料による物損事故に係る損害賠償額の決定に
関する意見の申出について

教委第20号議案 教職員の人事について

教委第21号議案 教職員の人事について

教委第22号議案 教育委員会事務局職員の人事について

教委第23号議案 教育委員会事務局職員の人事について

4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。本日は、綿引委員が公共交通機関の計画運休の影響によりまして、オンライン会議システムを用いた参加となっております。

初めに、会議録の承認を行います。7月19日の会議録の署名者は中上委員と森委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、8月2日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

(2) 報告事項

○横浜子ども会議の区交流会開催について

○南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プランについて

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、こちらも前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告いたします。まず、「横浜子ども会議の区交流会開催について」、次に、「南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プランについて」、報告いたします。

私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見がなければ、次に、「横浜子ども会議の区交流会開催について」、所管課から御報告いたします。

住田人権健康
教育部長

それでは、よろしくお願いいたします。人権健康教育部長の住田です。「横浜子ども会議の区交流会開催について」、所管である人権教育・児童生徒課から御

説明させていただきます。

松田 人権教育・児童生徒課長

人権教育・児童生徒課長の松田です。よろしくお願いします。それでは、横浜子ども会議について御説明させていただきます。「横浜子ども会議」は、いじめ未然防止のための子ども主体の取組として2013年から行われ、今年度で12年目となります。昨年度まではいじめの未然防止という観点で、基本的には各学校のふだんの取組、例えばあいさつ運動や、友達の良いところを見つける取組、意見箱を設置する、そういった各学校で居心地の良い学校づくりを目指した取組を発表するというような形式が中心の会でした。今年度については、「横浜子ども・子育て基本条例」の制定等も受けまして、いじめそのものについての話し合いを中心とした取組を予定しています。具体的には、法律上のいじめの定義、「相手が嫌だと感じているもの」がいじめであるということとを事前にワークシートで子どもたちが学びまして、その上でいじめをしないようにするためにどうすれば良いか話し合いをもつ。又は、文部科学省の「全国いじめ問題子供サミット」で扱われた、SNSをきっかけにしたいじめの事例を取り上げて、それについて話し合いをもつ。そういったことを各区で予定しております。「相手が嫌だと感じているもの」そのものがいじめだということを理解したうえで、一人ひとりがいじめそのものについて向き合って意見交換をする子ども会議にしていく予定です。

裏面には各区の日程と話し合いの内容が記載されています。今年度の内容についてもおおむねのところを記載させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。説明は以上です。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問があればお願いいたします。

中上委員

横浜子ども会議については私も何回か参加させてもらって、皆さんの非常に素晴らしい発表を聞いて、小学生が発表したことに中学生が良いコメントを投げかけてくれたり、発表までの間に学校でいろいろ議論した集約を横浜子ども会議にもってきたりという、プレゼンテーションの場としても非常に良い機会だと思います。子どもたちが自分たちでいじめをなくす具体的な取組について話し合うということは、非常に有意義だと思います。

ただ一方では、どうしてもきれいに発表してしまうので、あいさつ運動など最後の落としどころはどうしてもキャンペーン的なことで終わりやすいです。それはそれとして意味はあるのですが、具体的に何が原因なのか。今回の変更点にもありますように、実際にいじめそのものに向き合った子どもたちの話し合いのプロセスが非常に大事な気がしますので、今回の変更点も含めて更に有意義に行っていただきたいと思います。

もう一つは、いじめの問題には教育委員会事務局も学校の現場も非常に熱心に取り組んでいるのですが、学校だけでやり切れないと言いますか、いじめで不登校になったときの居場所づくりなど、やはり地域の課題に当事者意識を持ってもらって、それぞれ学校と地域と連携して、保護者とも連携して行うという取組にも広げていってもらいたいと思います。学校だけの発表ではなくて、せっかく会場は区役所等で行われているわけですし、各区には、子どもたちを応援する青少年指導委員とかスポーツ推進委員とか、PTAにしても地域では非常に力がありますので、その力を借りてこの問題も当事者意識をもつ契機にしていきたいというのがありますから、なるべく幅広く今後開催していただきたいと思います。意見です。以上です。

下田教育長	ありがとうございます。ほかにございますか。
大塚委員	今回、発表形式から意見交換への転換ということで、その転換の意図というのが素晴らしいと思います。子どもたち自身がいじめについて正しく理解し、それについて自分はどうするかということを区交流会で考えていくことが非常に重要だと思います。それにあたって、先ほどの御報告の中で、法律上のいじめの定義をワークシート等というお話がございましたが、それは全校規模で取り組むものなののでしょうか。それともこの横浜子ども会議等で取り組むものなののでしょうか。まずそこ教えてください。
松田人権教育・児童生徒課長	ワークシートに関しては、今回の横浜子ども会議に参加する子どもたちを対象に配付させていただいて、事前に学んだり事後に学んだりということで活用してもらっております。
大塚委員	ありがとうございます。すると、この会議を終えた後、参加した子どもたちがこの会議を自分たちの学校にフィードバックしていく、そのフィードバックがどのように行えるかということにかかってくるのではないかと思います。ぜひYーPでも法律上のいじめの定義を捉えたものができておりますので、これは全校規模で取り組んでいただきたいと願っています。ですから、横浜子ども会議の区交流会の後、各学校の一人ひとりの子どもたちが自分事としていじめを捉えられるような、そういう流れにぜひもって行っていただきたいと思います。 もう一点ございます。横浜子ども会議の区交流会が行われる前段で中学校ブロックの横浜子ども会議が行われていると思うのですが、その様子と言いますか、こういう取組を中学校ブロックでの会議で行っているという様子を教えてください。
松田人権教育・児童生徒課長	中学校ブロックで行っているところでは、もちろん小学校・中学校の子どもたちが集まって行うのですが、ここでも話合いの活動を中心に組み込んでもらっております。中学校ブロックで開催するときには地域の方々の御参加を依頼しておりますので、例えば学校運営協議会やPTAの方、保護者などいろいろな方々と、それぞれのブロックで工夫しながら、子どもたちだけではない形で話合いの場をもつような工夫をしたり、ブロックの活動を地域の会合で発表したりする機会をもつようなブロックもあったりします。そのようなことで、地域との連携を図る取組は、ブロックの中では可能性が高まっているという状況です。
大塚委員	ありがとうございます。当日の横浜子ども会議に向けたプロセスが非常に重要だと思います。その意味でも、中学校ブロックの横浜子ども会議ということで、地域の方々と連携や学校運営協議会との連携、そういったもので子どもたちが直接実感できる地域とのつながりの場にもなるかと思いますので、中学校ブロックでの様々な取組もあらゆる形で発信していただきたいと思います。以上です。
下田教育長	ほかにございますか。
森委員	意見交換への転換はすごく大事だと思います。加えて、自己の振り返りというものもすごく大事だと思います。話し合う手前になりますが、例えば、見て見ぬ振りをしていた自分はいなかっただろうか、嫌なことをしてしまった自分はいなかっただろうか、嫌だったけれども嫌だと言えなかった自分はいなかったか、SO

Sを出せなかった自分はいなかったかなど、話し合う手前の活動もすごく大事だと思います。今回、ワークシートを御準備されているということですが、話すことを目的化しないように、その手前をぜひ大事にしていきたいということが1点です。それを全て話さなければいけないということでもないと思います。安心した環境の中でどこまで自分が安心して話せるかということも本人が選べるように、その環境設定もぜひお願いしたいと思います。以上です。

下田教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、ほかに御質問がなければ、次に「南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プランについて」、所管課から御報告いたします。

山本学校教育
企画部長

学校教育企画部長の山本です。「南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プランについて」、所管課より説明申し上げます。

宮村高校教育
課長

高校教育課長の宮村です。「南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プランについて」、こちらの資料を御覧ください。令和5年度、横浜市教育委員会は、南高等学校及び南高等学校附属中学校につきまして、附属中学校設立時に策定した基本計画に定められた設置の目的・教育目標等の達成状況を振り返り、課題や今後の目指すべき方向性を整理し、同校の中高一貫教育を更に充実させることを目的として検証を行いました。そして、「南高等学校及び南高等学校附属中学校における中高一貫教育に関する検証報告書」をまとめたところです。このたび、検証でまとめられた課題や今後の目指すべき方向性をもとに、具体的な取組や、取組の時期についての計画を示す「南高等学校・南高等学校附属中学校中高一貫教育推進プラン」を策定いたしました。

下の「推進プランの3つの方向性」とあります図を御覧ください。この検証を踏まえ、推進プランとして3つの方向性に整理いたしました。本日は、本冊を用いて、方向性と今後の取組について説明させていただきます。

それでは、中高一貫教育推進プランの4ページをお開けください。方向性の1点目「1 南高校・南高校附属中学校が目指す資質・能力の育成のために」を御覧ください。まず、「(1) 現状と課題」のところですが、こちらは、昨年度取りまとめました検証報告書の検証のところをまとめたものになります。内容としましては、南高校・南高校附属中学校では、「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」、各教科等における探究的な学び、学校行事や部活動などの多様な教育活動等を通じて、教育目標、スクール・ミッションに示された資質・能力の育成が行われております。これらの取組につきましては、質の高い学びによる高い学力の習得につながり、ひいては生徒が希望する進路の実現に成果が見られております。その一方で、6年間を見通した文理融合の横断的カリキュラムの編成、6年間を見通した体系的な学習指導、キャリア教育、特別活動の実施などについて、中高の接続や一貫性についての課題が指摘されているところです。今後、南高校・南高校附属中学校の中高一貫教育をより充実していくために、6年間を見通したカリキュラムの再編成、探究活動の見直しを行う必要がある。このようにまとめました。

それでは、6ページを御覧ください。このことを踏まえた「(2) 今後の取組」についてです。まず、1点目としまして、「6年間を見通したカリキュラムの再編成」。こちらにつきましては、主に各教科等における学びについてのカリキュラムのことになります。6年間一貫して学ぶことの長所を更に生かせるよう、カリキュラムの再編成を行い、附属中学校の令和8年度入学生から実施して

いきます。カリキュラムの編成にあたりましては、中高一貫教育校における教育課程の基準の特例の活用も含めて検討してまいります。また、令和5年度入学生から令和7年度入学生につきましては、中高の接続期となる中学校3年生からの学びの連続性を踏まえたカリキュラムを令和7年度から実施していきます。

続きまして、「6年間を見通した探究活動の充実」です。ここにつきましては、中学校段階の「総合的な学習の時間」、そして高校段階の「総合的な探究の時間」、ここまでの学びを一体化し、令和8年度から実施します。

続きまして、7ページをお開きください。方向性の2点目「2 南高校・南高校附属中学校が目指すグローバルリーダーの育成のために」です。「(1)現状と課題」につきましては、同校では4技能をバランスよく育成する英語教育に加え、「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」、横浜スーパーグローバルハイスクール、国際交流、海外研修等の取組を通して生徒の実践的な英語力の育成やグローバルな視点の育成が図られてきました。また、生徒や教職員のアンケート調査結果からは、生徒のグローバルへの意識が高いことも分かっております。このような生徒の意識を、海外大学の進学・留学・仕事での国際的な活躍という将来の目標に更につなげ、「南高校が目指すグローバルリーダー」を育成していくために取組を充実させていく必要がある。そのようにまとめております。

このことを踏まえた今後の取組につきまして、8ページに記載がございますので、御覧ください。「6年間を見通したキャリア教育の充実」ですが、グローバルな視野をもって自身の将来を描いていけるよう、教育活動全体で6年間を見通した体系的なキャリア教育の充実を図ってまいります。

2点目として「英語活用機会の充実」ですが、実践的な英語力を更に伸ばさせていくために、主に探究活動等におきまして、英語による発表・意見交換・議論などを行う、実際の活用機会の充実を図っていくというものです。

9ページを御覧ください。「国際交流等の海外プログラムの充実」。生徒が海外に対するイメージを具体化し、グローバルへの意識を自身の将来の意向・目標につなげられるよう、国際交流等の取組の充実を図ってまいります。令和6年度には、高校のカナダ・バンクーバー市の姉妹校ポイントグレイ・セカンダリー・スクールへの訪問を再開していきます。また、令和8年度には、附属中学校3年生の同市への海外研修を再開いたします。横浜スーパーグローバルハイスクールの取組につきましては、新しくニューヨークでの研修を新規に実施していきます。その他、世界の高校生とのオンライン交流等を通じて、生徒が多様な価値観に触れる機会を積み重ねていけるよう、取組を進めてまいります。

続きまして、10ページを御覧ください。「国際教育機関との連携」です。こちらは国際都市横浜の強みを生かし、国際教育機関等と連携し、留学生等との交流を行ってまいります。そして、国内での交流機会や体験プログラムの充実を図ってまいります。

続きまして、「海外大学進学支援・留学支援の充実」です。海外大学進学支援プログラムの拠点校として培ってきた経験や利点を生かし、生徒の海外大学への進学をより一層支援してまいります。

続きまして、11ページを御覧ください。方向性の3点目「3 中高一貫教育校としての強みを生かすために」。まず「(1)現状と課題」ですが、同校では高校入学時から中入生・高入生の混合クラス編成としまして、高校では異なる環境で学んできた生徒同士がお互いを認め、尊重し合い、切磋琢磨しながら充実した学校生活を送っている様子が伺えます。しかし、中入生と高入生では授業に対する感じ方に違いがあり、中高ともに一定数の教職員が、附属中学校と高校の連携については改善が必要と感じていることが分かりました。中高一貫教育校として

の強みを生かし、今後、教育目標、スクール・ミッションの達成に向けて、更に前進させていくためには、6年間の一貫した教育過程の再編成、中高の連携強化、グローバルリーダーの育成に向けた取組を一層充実させていく必要があるといたしました。

続きまして、12ページを御覧ください。これを踏まえた「(2) 今後の取組」でございます。まず、1点目としまして、「高校・附属中学校の連携体制の強化」。6年間一貫した中高の教員の相互乗り入れ授業の更なる実施、そして、中高一貫教育校内の人事交流の制度を活用した職員配置、学校運営組織の見直しを行うなど、教職員が一体化して教育活動を行う体制の強化を図ってまいります。なお、相互乗り入れ授業につきましては、中学校3年生と高校1年生の中高接続の学年から充実を図っていきます。

続きまして、「高校からの入学者募集の停止」につきましてです。今までの同校の取組を評価しつつも、教育目標、スクール・ミッションの達成に向けて、更に前進させていくために、令和8年度入学者選抜、こちらは令和7年度に実施するものですが、高校の募集を停止し、附属中学校・高校が一体となり、6年間一貫して生徒を育成してまいります。附属中学校からの募集定員につきましては、学校施設の使用状況や、今後、県内の公立中学校の卒業生数が減少していく状況も踏まえ、変更は行わず、現行の学校施設を活用し、少人数授業等の教育活動を継続しながら、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図ってまいります。

最終ページ、13ページにありますのは、ただいま説明申し上げました取組につきましての実施スケジュールでございます。後ほど御覧ください。説明は以上でございます。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問があればお願いいたします。

中上委員

この南高等学校の中高一貫教育推進プランについては、中高一貫のメリットを生かす教育目標を行った検証をすべきだということを、私は再三この教育委員会会議でもお願いし、非常に短期間に検証していただいて、それを踏まえて新しい推進プラン、中高一貫のメリットを生かす、更に発展させるプランを今回出されたということで非常に良かったと思っております。

2点あります。1点目は、この検証のときもいろいろ指摘されましたし、先ほどの説明の中にもありましたが、6年間を見通したカリキュラムをしっかりと作っていくことが非常に大事だということを再認識したところです。特に神奈川県と違って横浜市は、高校の教員の数に限られておりますので、なかなか交流や連携というのは難しいと承知しています。ただ、南高等学校のスタートのときも、それを埋めるために、東京では先進的に中高一貫教育を十何年行っておりますし、実績を上げた学校に教員を1年間派遣して質を上げたり、いろいろ苦労しながら中高の教員の連携の充実を図ってきたところだと思います。これからも教職員人事課で人事交流の支援をしていただいて、高校と中学の先生たちが連携した授業改善と言いますか、本当の効果のあるカリキュラムに変えていくということが大事かと思えます。まして、今回のアウトプットの中に、高校からの入学者募集停止とあります。これは前々から言われていた中で、特に教員の負担と言いますか、今の働き方改革の中で、入試期間中の負担など、その期間は学生が登校できませんので、中高一貫教育のメリットを生かせないなど、いろいろ検証の反省があったと思うのですが、そういうことも踏まえて良い方向が出てきたと思います。繰り返しますが、高校と中学の教員たちの連携した授業改善、カリキュラムの再編成、これを充実させていただきたいというのが1点です。

それと2点目は、「グローバルリーダーの育成のために」ということで、この新規事業の中に、横浜市の姉妹都市でありますカナダ・バンクーバー市との国際交流を、新型コロナウイルス感染症で中断していたところがあって、お聞きしますと南高等学校の保護者の方からも中断している国際交流をもっと進めてほしいという強い要望があったとお聞きしていますし、それを踏まえて姉妹校との連携も図るし、新規でニューヨークとも国際交流をするということで、実際に高校生や中学生たちと直接価値観の違いを話し合ってみて、現実に向こうの考え方を直接自ら肌で感じてディスカッションしていくというのは非常に有意義なことだと思いますので、財政的にも予算的にも厳しいとは思いますが、ぜひこれを推進していただきたいと思います。以上です。

下田教育長

ほかにございますか。

綿引委員

ありがとうございます。今、御説明を聞かせていただいて、南高等学校の中高一貫教育推進プランというのは、横浜市が掲げるグローバル教育、SGHの認定の観点から、本当に成果が着実に上がっているということを、今の報告を聞いて理解いたしました。そして、素晴らしい推進プランだと思わせていただきました。6年かけて真のグローバルリーダーを育成するという観点から、更にもう一段も二段も高みを目指して、質的な充実を求めていただきたいと願っております。

その意味で、2点ございます。1点目は、カリキュラムの観点でございます。南高等学校については、特例的な教育課程の編成は取り入れていないと私は理解しておりますが、国際交流プログラム等の、海外との交流というプログラムの中においては、カナダへの派遣もあるわけですし、ニューヨークもあるわけですが、そうした中で、現地校の教育で柱としている社会課題に正面から向き合わせるという教育をぜひ体感させて、教員の方にも経験いただいて、革新力を養うプログラムを、教育課程編成の中で、この推進プランの中で取り入れていってほしいなと思います。そうすることによって、推進プランの中にあるアンケートで、それぞれの国の国民性、文化、慣習の違いというレベルから、各国・各地域の社会的な課題に関心があるという生徒の比率がだんだん増えてくる。これが真のグローバルリーダーの育成に直結すると考えておりますので、ぜひ特例的編成も活用して検討していただくことが大事ではないかというのが1点目でございます。

2点目は、人事交流の観点でございます。こういったことの質的な向上を図っていくためには、教師力というのが非常に重要になってくるわけでございます。既に横浜市教職員育成課が推進しておられます海外研修派遣制度やJICA海外協力隊への派遣制度、そういった経験者を南高等学校の中学の教員として派遣する。中学の教員にそういった制度で参加させ、経験を積ませ、南高等学校の中で今言ったような教育プログラムの推進、教育の質の向上に貢献するというサイクルが回り始めることによって、学ぶなら横浜市、学ぶなら南高等学校というような形が実現できるのではないかと考えております。予算や人的な面で大変だと思いますが、できることからぜひ実現に向けて着手していただきたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

宮村高校教育課長

御意見ありがとうございます。今いただいた意見をもとに、こちらでも方策につきましては検討してまいりたいと思います。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

御説明ありがとうございます。今回の推進プランの中で、最初に「総合的な学習の時間（E G G）」と、高校では「TRY & ACT」だと思うのですが、そこについての言及があると思います。南高等学校の大きな特徴がこの二つにあると思ってまして、それをベースに、二つ目の軸として今回書いていらっしゃるグローバルリーダーの育成のためにどうつなげていくか、6年間を通してどう行っていくかがポイントだということが大変よく伝わってきました。ただ、これを二つの軸としているがゆえに、少しばらばらに見えてしまうともったいないなと思っていますところ。交流という言葉がありますが、交流は何のために行うのかということところは、よく考えながら設計しないといけないと思いながら見ておりました。

ですから、若干、綿引委員との重なりもありますが、今その二つをつなげる部分というのはどこにあるか見ますと、8ページにあるような探究活動、英語によって発表というところにとどまっているような気もしています。実際は、もう少しいろいろとあるのかもしれないですが、この発表、資料上はそのように見えてしまっていると思います。グローバルリーダーの育成では、キャリア教育や課題発見解決力、国際交流とありますが、理想としては、自分が探究しているテーマが、例えば違う国では異なる前提、歴史、文化、風土、政治の中でどんな課題があるのか、取り組み方がどのように違うのか、それに取り組んでいる人たちも、子どもたちを含めて自由や責任、自主性というところをどのように感じていて、インクルーシブな環境がどのように設計されているかということの背景の違いなどを知った上で、日本にまるごと持ってくることはできないので、日本の環境ではどのようにそれが解決できるのだろうか考える、この軸の行ったり来たりが設計の肝になるだろうと思いますので、そこはぜひつなげていただけたらと思います。

ですから、少しだけ気になるのは、9ページの一番上の行に、交流の目的というのが「グローバルへの意識を自身の将来の意向・目標につなげられるよう」とあるのですが、そこが目的というよりは、どちらかというと、キャリア教育はそれぞれグローバルへの意識をもった将来の目標につなげることではないと思うので、それぞれの交流プログラムの目的というところをもう少し言語化できると良いだろうなと思いました。

あと、高校からの入学者募集の停止ですが、そこについて今後どのように周知していくかというところの考えがあれば教えてください。

宮村高校教育
課長

御質問ありがとうございます。中学生に対しての周知ということですが、今日この教育委員会会議が終わったところで、ホームページにこの内容については広報してまいりますので、そちらを見ていただく形になるかと思います。そういった学校説明会等も行われていきますので、本日以降、募集停止のことについては話していきたいと思います。

下田教育長

よろしいですか。ほかに御質問があればお願いいたします。

大塚委員

今の森委員の最後の御質問ですが、今の御回答ですと、中学生に対してということでした。私は小学校についてなのですが、小学校6年生の子どもたちが南高等学校附属中学校の受検に向かって努力していますが、高校の情報もしっかりと持っていることが大事ではないかと思いますので、ぜひ中学生対象という範囲を広げていただいて、受検をする子どもたちが正しい情報を持って受検するというところの視野も入れていただきたいと思います。要望です。

あと1点質問ですが、12ページの「(2) 今後の取組」のところも非常に重要だと思います。中高一貫教育として様々な取組をされていて、その成果も出ていると思います。その上での課題と捉えているのですが、先ほどの御報告の中で、教職員が6年間を見通した体系的な学習指導、キャリア教育と連携が充実しているかというところで、教職員の1割程度の方々がとても充実していると思うという御回答でした。「(2) 今後の取組」の1番に「高校・附属中学校の連携体制の強化」ということが取り上げられているのはとても納得できるものです。相互乗り入れ授業は、今は英語で中学校、高校が行っていらっしゃると思います。12ページのグラフですが、ここの令和6年度の取組の中で、令和6年度は検討とございます。この検討の具体的な部分がもし、まだ始まって4か月ちょっとだと思いますが、こういった内容の検討を行っていますということを教えていただければお願いしたいと思います。

宮村高校教育
課長

御質問ありがとうございます。高校・附属中学校の連携体制の強化の進捗と言いますか今の状況ですが、今この推進プランをお知らせしたところで、各教科でそれぞれどのような形で進めていくのが可能かという話合いに入るところです。ですので、これから進めてまいりますということになります。教科によって連携の仕方というのは一様ではないと考えておりますので、そのところは現場の教職員にしっかりと話し合ってもらい、実現させていきたいと考えております。

大塚委員

話合いが非常に重要だと思います。その話し合う中で、個々の教職員が自分の教科に対してどういう情熱を持っていられるか、中高一貫に対しての思いや願いというのをどう持っていられるかという本音の部分での意見交換をしていただいて、南高等学校・南高等学校附属中学校ならではの新たなものをぜひつくり上げていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

下田教育長

ほかにございますか。

泉委員

御説明ありがとうございます。私からは感想と言いますかお願いとなります。今日出していただいている資料は恐らく検証部分については簡易版ではないかと思っていて、オリジナルの検証報告書も拝見させていただいたときに、論点を設定してこれを検証していく際に、これまでの学校の取組のデータを収集され、かつ、今在校されている生徒や教職員、保護者等々のかなり大規模なアンケート調査を取られて、そのデータをもとに今後の方向性について整理されたことによって、すごく説得力のあるものになったと考えています。ですから、今回このアンケート、令和5年7月から令和5年8月にかけて行われたのは大規模な作業で大変だと思いますが、ぜひこれを継続して定期的に行っていただいて、今回これから始めていかれる推進プランは一体どうなのか、何が良かったのか、どこをもう少し修正すれば良いかというものを割と短期間で分かるように、このアンケート調査、ヒアリング調査を継続していただきたいと思います。以上です。

宮村高校教育
課長

御意見ありがとうございます。同様の御意見は、昨年度行いました検証会議の中からも出ておりますので、しっかりと目標等設定し、この後も見ていくということは継続してまいりたいと思います。

下田教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

ほかに御意見がなければ、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、

会議の非公開について、お諮りします。教委第18号議案「『令和5年度実績 横浜市教育委員会点検・評価報告書』について」は、議会の報告案件のため、教委第19号議案「横浜市立図書館における図書館資料による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」は、議会の審議案件のため、教委第20号議案及び教委第21号議案「教職員の人事について」、教委第22号議案及び教委第23号議案「教育委員会事務局職員の人事について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、教委第18号議案から教委第23号議案は、非公開といたします。審議に入る前に、事務局から報告をお願いいたします。

森長総務課長

今回の教育委員会定例会は、9月6日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、今回の教育委員会臨時会は、9月19日木曜日の午前10時から開催する予定です。

下田教育長

今回の教育委員会定例会は、9月6日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第18号議案「『令和5年度実績 横浜市教育委員会点検・評価報告書』について」

(字句の訂正を除き、原案のとおり承認)

教委第19号議案「横浜市立図書館における図書館資料による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

教委第20号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第21号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第22号議案「教育委員会事務局職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第23号議案「教育委員会事務局職員の人事について」

(原案のとおり承認)

下田教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後0時45分]